

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊橋市こども発達センター ゆり組		
○保護者評価実施期間	令和 7年 10月 21日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	令和 7年 8月 2日		～ 令和 7年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 3日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種(保育士、看護師、理学療法士)で部屋の運営を行っており、子ども一人ひとりに合った療育を実施している	・子ども一人ひとりの体調や発達段階を丁寧に観察し、小さな変化を職種間で共有することを意識している。医療的ケアと生活支援、遊びを結びつけた療育を行い、安心して過ごせる環境づくりを工夫している。また保護者との情報共有を大切に、家庭と連携した支援を心がけている。 ・施設内にリハビリテーションを実施できる機能があり、担当職員とリハビリの様子など情報共有を行い、日々の療育に取り入れるようにしている	・今後も職種間での振り返りの時間を定期的に行い、支援内容や関わり方を見直す機会を増やしていく。 ・研修の参加や事例検討を通して専門性を高め、最新の知識を現場に生かす体制を整える。 ・保護者との同じ方向を向いてできる体制づくりを進めていく。
2	・定員5名と小規模なので、おおむねスタッフと1対1で対応できるため、お子さんの反応をしっかり観察できる	・日々の関わりを振り返り、職種間で情報共有しながら、支援内容を調整している。 ・子どもの「できた」を大切に、安心して過ごせる関わりを意識している。	・日々の気づきや課題を共有することで支援の向上を図る。 ・他の施設と連携し、地域で安心安全に暮らせる体制づくりをすすめていく。
3	・安全計画に基づき毎月避難訓練を実施している。地震や災害を想定し職員が役割を確認しながら迅速に行動できる体制を整えている。 ・子ども一人ひとりの特性を配慮し安全に避難できる方法を日頃から確認し、非常時にも落ち着いてできるように努めている。	・安全計画のマニュアルは、内容を確認し、必要に応じて改訂している。 ・子どもの特性や医療的ケアを踏まえた対応、職員間で役割分担を明確にしている。 ・訓練後は必ず振り返りを行い課題や気づきを次回に生かすことで、安心して過ごせる環境づくりを意識している。	・実践的な避難訓練を想定場面を増やし、地震・火災・水害など状況別の対応を確認していく。 ・子どもの身体状況や医療的ケアに応じた避難方法を職員間で共有し、誰が対応しても安全に行動できる体制を整える。 ・今後も安全計画のマニュアルの定期的な見直しと保護者との情報共有を深め、安全で質の高い支援につなげていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・給食が外部提供	・弁当を外部に注文している。 ・おかずはムース食、やわらか食、刻み食、一口大。ご飯は軟飯と通常の硬さとある。特におかずのムース食より上の形態がないのが食事の形態をあげていくときに苦慮している部分である。また、アレルギー対応が出来ないため、弁当を持参してもらっている。	・外部注文を依頼している業者と形態や食事量、金額等打ち合わせしている。 ・外部注文の給食では対応が困難な場合は、弁当を持参するなど保護者の理解と協力を得ていく。
2	・地域のこどもとの交流を含め、地域参加の機会が少ない。	・重症心身障害児や医療的ケアが必要な児が主な対象となっているため、地域参加において制約がある。 ・感染対策上の観点から、不特定多数の人と関わることに慎重に対応している。	・運動会など家族単位で参加した行事の情報を共有する。 ・地域のボランティアによる絵本の読み聞かせを実施し、子どもたちの豊かな感性や言葉の育ちを支援しています。
3	・療育時間が短い	・仕事復帰を希望している家族が増えている。そのため、9:30～15:30では療育時間が短く、仕事を可能な範囲で調整してもらっており、通園を希望する家族の要望に答えられない場合もある。 ・職員の勤務体制も整っていない。	・保護者のニーズを把握をしていく。 ・療育時間が短い状況を踏まえ、事前に支援目標を明確化し、活動内容を厳選して実施している。多職種での情報共有を徹底し、限られた時間でも子どもの安心と発達につながる質の高い療育を心がけている。